

H.C.R.2018 (10/10・11・12 in東京)へ参加

制度化見据え、業界全体のスキルアップを推進

「福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）」スタート！

去る10月10日、H.C.R.（国際福祉機器展）2018初日、恒例のワークショップを開催した。テーマとなったのは、福祉用具専門相談員が「より専門的知識及び経験を有する者」となるための研修「**福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）**」。2018年度下期から各地でスタートするこの研修の意義について、福祉用具専門相談員、貸与事業者、研修機関の方々に紹介した。

開会に当たり、岩元理事長は、「介護保険制度等の改正への対応とは別に、**弛み**ない努力^{なま}が必要なのが福祉用具専門相談員の資質の向上。それは本会の基幹プロジェクトともいえる。各方面の協力もあり、制度化に向けた具体的な第一歩として、更新研修がよいスタートを切る。その意義と内容について、しっかりお伝えしたい」と語った。

ワンランク上の福祉用具専門相談員、輩出に向けた認定研修

「職能団体である本会が認定制度をスタートし、福祉用具専門相談員の資格制度に先鞭をつけることの意義は大きい」と語ったのは、コーディネーターを務めた白澤政和氏（略歴は次頁を参照）。

介護保険制度における福祉用具サービスの質の向上については、すでに様々な議論がな



岩元 文雄（いわもと ふみお）氏
本会理事長

「専門職としての知識の向上に対する“歩み”は、どんなことがあっても止めてはいけない」

されている。要素は大きく2つ。1つはハード面である福祉用具の開発・改良。もう1つは、それを効果的効率的にサービスに結びつける、福祉用具専門相談員の専門性の向上だ。現行制度では、福祉用具専門相談員になるための法定講習は50時間。修了後は、OJTと自己研鑽のみである。専門職として求められる役割と担う責任の大きさに比べれば、不十分感は否めない。そこに誕生したのが**福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）**である。



2018年10月10日（水）～12日（金）に開催された「国際福祉機器展 H.C.R.2018」。天候にも恵まれ、事業者やご利用者などで盛況となりました。3日間の来場者数は、延べ119,452人。本会のブースでは、パンフレット・資料の掲示、配布、書籍販売のほか、賛助会員各社の協力のもと、スタンプラリーを開催しました。ご来場、ご協力ありがとうございました。

平成25年介護保険部会の「人員基準で2名配置されるうちの少なくとも1名を、**より専門的知識及び経験を有する者**」とすることを検討しては」という意見を受けて、日本福祉用具供給協会が平成26年度厚生労働省老人保健健康増進等事業で行った検討の結果が「研修の目的・位置づけ」である。

本会の更新研修制度の作業部会委員長を務めた渡邊愼一氏によれば「実務をこなす中で、レベルアップしていくイメージを表した。あえて大きく3段階に分けているのは、実行性を担保するため」。いきなり高いレベルを目指す、研修時間は長くなり、試験の難易度も上がる。更新研修で、まず一段階目のレベルアップを図る。2人に1人といわず、将来的には福祉用具専門相談員全員を引き上げる構想だ。まず、初年度は、1000名の修了者を目指し、更新



白澤 政和 (しらさわ まさかず) 氏
本会理事
桜美林大学大学院
老年学研究科教授



渡邊 愼一 (わたなべ しんいち) 氏
本会理事
一般社団法人神奈川県
作業療法士会 顧問

「多くの新製品や新機能を理解した上で、ご利用者に合わせた選定提案ができるか。ご利用者のみならず、多職種の方々に対しても分かりやすい説明ができるか。福祉用具専門相談員の重視すべき専門性である提案能力を培う、これが20時間の更新研修の目的」と語るのは東畠弘子氏。



東畠 弘子 (ひがしはた ひろこ) 氏
本会理事
国際医療福祉大学大学院
教授

研修修了者
より高い専門性を持つ福祉用具専門相談員との位置づけを明確なものとする。

カリキュラムは講義だけでなく、演習に重点をおいたものとなっている。参加者が持ち寄った事例をもとにグループセッション、ロールプレイングを行い、サービス担当者会議などで、提案、説明する能力を養う。そこで確認し、目指すレベルは、専門職として「当然求められるべきもの」(東畠氏)。

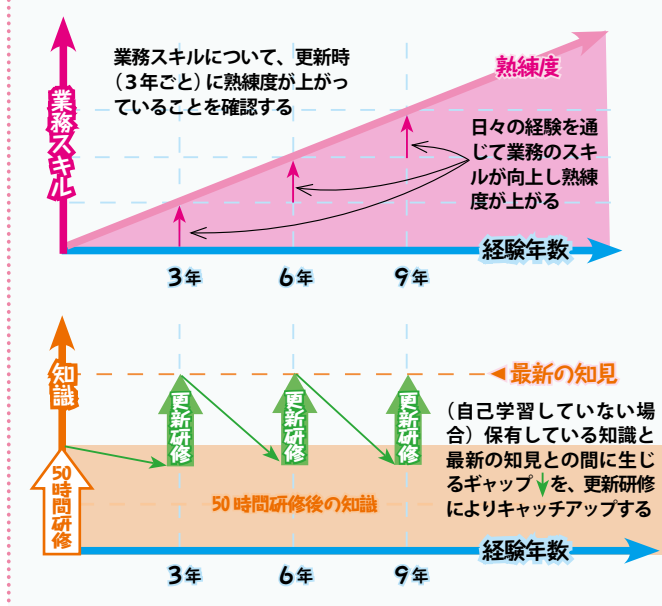
今、サービス提供についての「見える化」が求められている。福祉用具専門相談員の業務プロセスにおける「見える化」の初手は、福祉用具サービス計画の作成であった。そして、全国平均貸与価格や複数提案に応じたサービス提供のツールとして、本会では「選定提案」様式を提案している。これらの業務プロセスを、効果的・効率的なサービス提供につなげるのに欠かせないのが、積み上げた専門的知識

◆ 受講要件 ◆
(原則として) 福祉用具専門相談員取得後3年以上の実務経験を持つ者
自身が担当した事例(福祉用具サービス計画書等)を提出すること

◆ 研修カリキュラム ◆

- 【一日目】 ● オリエンテーション
- 福祉用具と福祉用具専門相談員の役割
- 介護保険制度の最近の動向
- 高齢者の医療・介護に関する知識
- 福祉用具および住宅改修に関する知識・技術
- 【二日目】 ● 業務プロセスに関する知識・技術
- 【三日目】 ● 総合演習

◆ 研修の効果・役割 ◆





充実した研修内容で全国展開 業界全体のボトムアップを

と経験。しかし、経験を積むことで現れる懸念材料もあると渡邊氏は指摘する。「経験を積むほどに、サービス内容や手法などが我流になりやすい。これは修正しなければならぬ。また、スペックが高くなったり、新しい福祉用具が誕生したり、そのスピードや情報量に対応するためにも定期的な更新研修が必要になる」(渡邊氏)。

神智淳氏は研修を開催する教育機関の立場から課題を提起。「実務3年の方も10年以上の経験豊富な方も満足するような深い知識と豊富な経験をもった講師が必要」(神氏)。当面は、PTやOTが講師を務めるケースが多いが、長期的な教育体制の構築を考えると、その地域の福祉用具専門相談員の活躍が望まれる。具体的な候補としては、本会が養成・認定するスーパーバイザーS・Vなどが考えられる。

また、神氏は、実務をこなしながらでも参加しやすいよう、周辺地域で受講できるような環境が望まれる。

とした。各教育機関には、指導内容だけでなく、講師の支援についても網羅している指導要領の活用を奨励した。



神智淳 (しん とみあつ) 氏
お茶の水ケアサービス
学院学院長

岩元理事長は、「我々が今後、もう一段階段を上げるためにも、今がどうしてもはずせないスタートのタイミング。介護保険の改正では、各所に『さらなる専門性』を求めるという表現がみられた。福祉用具専門相談員がその流れにしっかりとるため、ここで体制を固めたい」と各方面へ協力を呼びかけた。

福祉用具専門相談員指定講習機関向け平成30年度介護保険制度改正説明会

同日14時30分からは、福祉用具専門相談員指定講習機関などを対象とし、介護保険制度改正内容の説明会を開催した。基調講演を行った松本琢磨氏は、「福祉用具専門相談員は福祉用具貸与サービスにおけるセン



松本 琢磨 (まつもと とくま) 氏
厚生労働省老健局
高齢者支援課
福祉用具・住宅改修指導官



▲写真上：白澤政和氏（前掲）「福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）に関する調査・研究の報告について」

▼写真下（右）：照井言彦氏（中央法規出版株式会社）「福祉用具専門相談員研修関連テキストについて」



われ、ご利用者の自立や介護負担の軽減などが成されることの意義・効果は大変大きい。貸与価格への対応や軽度者への貸与等、多職種連携など、課される課題は多いが、その活躍に注目・期待している」と語った。



説明会に続いて開催したブロック長会議で、岩元理事長は、「更新研修の開催には、各県ブロックの協力が不可欠。今年度中が難しくとも、来年度開催に向け、チャレンジしてほしい」と語った。また、事務局からは、行政への働きかけや集客にあたってのアドバイスがあった。

平成30年度第2回ブロック長会議

**2019年度下半期研修会等開催実績
および今後の予定** ※発行日現在開催済

◆福祉用具専門相談員更新研修◆

東京：11/27～29（火・水・木）※
富山：12/13～15（木・金・土）※
大阪：12/20～22（木・金・土）※
〈2019年〉

神奈川：3/5（火）・19（火）・28（木）
大阪：3/14～16（木・金・土）

右記のほか、新潟県、宮城県、愛知県、三重県、京都府、鳥取県、広島県、鹿児島県などで開催を検討中。各ブロックでの開催も随時検討。

◆リフトリーダー養成研修◆

滋賀県ブロック：11/30・12/1（金・土）※
新潟県ブロック：12/14・15（金・土）※
鹿児島県ブロック：12/15・16（土・日）※

◆SV（スーパーバイザー）養成研修◆

東京：12/7・8（金・土）※

◆事務局より◆

『福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん研修）テキスト』
2019年1月10日発行！
福祉用具専門相談員更新研修カリキュラムに準拠しています。介護保険法2018年改正にともなうサービス計画書の様式変更にも対応。



B5判 226頁
税込価格 3,240円

好評発売中!!



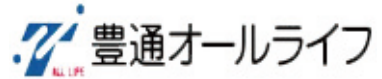
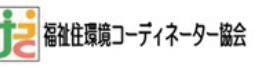
『福祉用具サービス計画
作成ガイドブック 第2版』

ふくせん新様式「選定提案」に完全対応！

A4判 200頁
一般価格 2,808円 / 会員価格 2,527円

情報はふくせんHPで！ *随時更新しております。

<http://www.zfssk.com/event/index.php>

 株式会社 島製作所			 From the Inside Out	賛助会員各位 ※いつも協力ありがとうございます。
	 株式会社 ウイズ	 株式会社 イーストアイ		
 株式会社 ショウ	 シーホネンズ株式会社		 株式会社 ケーブ	
	 住友理工株式会社	 since 1941		
				
		 日進医療器株式会社		
 Chuohoki Publishing Co., Ltd.	 as human, for human			
			 ふくせんレポート 第024号 発行所 一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会 〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7 ロール三田 404 TEL: 03-5418-7700 FAX: 03-5418-2111 URL: http://www.zfssk.com/ 発行日 2018年12月25日 編集協力 株式会社 東京コア	
	 ラックヘルスケア株式会社			
				

※ 2018年12月25日現在